

柏市長賞

払った税のその先を

柏市立柏第二中学校 第三学年 正崎 歩和

幼い頃から私は、緊急時には一一九に電話するように教わってきました。日頃外で救急車のサイレン音を耳にすることは珍しくありません。そのため日本での年間の救急車の出動車数が七百万を超えるると聞いても驚きませんでした。けれど国によっては救急車にかかる費用を呼ぶ側が負担しなければならぬことを知り、その金額に衝撃を受けました。例えばニューヨークで救急車を呼ぶと、搬送料金だけでも六万円から八万円ほどかかり、救命処置を行ってもらうと十五万円を超えることもあるそうです。もし日本も救急車が税金で賄われていなかったら、私は緊急時にこの金額を払う判断をする自信がありません。大人だったとしても、道で見かけた初対面の人に救急車を呼ぶ判断を躊躇わずできる人は多くないでしょう。そのため、救急車が無料で利用できることは多くの人にとって、大きな助けになっているのだと思います。

一方で、救急車を利用した中の四十五パーセントの人が軽症だったことも知りました。つまり、救急車を必要以上に利用してしまっているということです。救急車の管理、ガソリン代、医療機器等を合わせると一回の出動で約四万五千円の費用がかかるため、全員が本当に必要なときにだけ正しく利用できれば、千億円以上の節約になるそうです。けれど、こういった税金で賄われているものを利用する際は、実際に使っている金額が目に見えないため「使いすぎ」に気づくことが難しいのだと思います。

現在、急速に少子高齢化が進んでいます。そのため、私達学生が働く世代になったときには、今以上に税の負担が大きくなっているかもしれないと不安です。しかし、多くの人が税金で賄われたものを正しく大切に使うことで使いすぎを減らし、その分を年金や介護に必要な税の一部として使えば、少しでも税の負担を軽くすることができないかと考えます。また、使いすぎを減らすだけでなく、使われた税金を大切にすることも大事だと思います。その一例が学校です。私は普段払ったその先を考えたことはあまりなかったけれど、いつも使っている教室の机や椅子、楽器や体育のボールなど、学校にも「その先」はたくさんあるのだと知りました。こういったものを大切に扱い、長く使用することでそこに使われた税金を無駄にしないということも、税の節約に繋がるのではないのでしょうか。

私がこれから払っていく税は今よりもっと増えていきます。その税が誰かに大切に使われて、誰かを助ける税になったら嬉しいです。私は将来、そんな「幸せを届ける税」を払う、大人になりたいと思います。